
高度栄養不良患者の難治性褥瘡に対して 多職種連携し創傷治癒に貢献した一例

社会医療法人 社団 沼南会 沼隈病院 栄養管理課
梅田 祐紀 白川 香苗



第21回日本医療マネジメント学会学術総会 利益相反 開示

演題発表に関連し、
開示すべき利益相反関係にある
企業などはありません。





症例

- 80代女性
- ADL全介助
- 腰椎椎間板ヘルニア後、リハビリ目的にて当院に転院
- 転院時、仙骨部にD3-e3s6i0G6N3:18の持ち込み褥瘡あり
⇒保存的加療にて上皮化
- 老人保健施設へ退院後、仙骨部に2.0×1.0cmの潰瘍あり
⇒保存的に加療し、上皮化
- その後特別養護老人ホームに入所となる
- 入所中発熱あり経口摂取量低下
- 仙骨部に2×2cmの褥瘡再発
⇒悪化傾向あり当院受診





■ 来院時 DU-e3s12I9G6N6 : 26

■ 10×7cmの黒色壊死 (+)

■ 19×11cmの発赤 (+)



■ デブリードマン後 D4-E6s12I9G4N3P24 : 58

■ ポケット18×12cm

■ 深部損傷褥瘡からの敗血症性ショック状態にて当院入院

- 入院時 体重 34.0 kg(BMI : 14.9)
- 血液検査

Alb	BUN	Crea	Hb	CRP
1.7	59.9	0.76	9.2	26.21

- 右坐骨部に皮下硬結 (+)、発赤 (+)、熱感 (+)
壊死性筋膜炎にて右臀部皮膚切開術施行
輸血施行





STによる嚥下評価実施

⇒意識レベルの低下、口腔内汚染・痰貯留あり、咽喉頭内感覚低下など嚥下機能低下あり経口摂取困難



経鼻栄養開始

日付	期間	エネルギー量(Kcal)	タンパク質量(g)	水分量(mL)	栄養管理	褥瘡
2017/12/29	0週目	108	10.8	300	経鼻チューブ挿入 グルタミン・ファイバー・オリゴ糖含有食品投与	
2018/1/6	1週目	900	45	1056	尿量の減少、胸水貯留、 上肢・腹部に浮腫あり 利尿剤内服開始	経管栄養の開始に伴い泥状便あり⇒肛門パウチ貼付し便汚染を予防

合併症予防のために、栄養投与は少量から開始して慎重に増量



- NST介入時 体重 38.0 kg (BMI : 16.7)
- 血液検査

Alb	BUN	Crea	Hb	CRP
1.5	31.9	0.73	7.6	5.88

- Harris-Benedictの式を用いて栄養量1400Kcal/日と算出
- 褥瘡回診・NST回診：週1回実施
- 合同カンファレンス：月1回実施



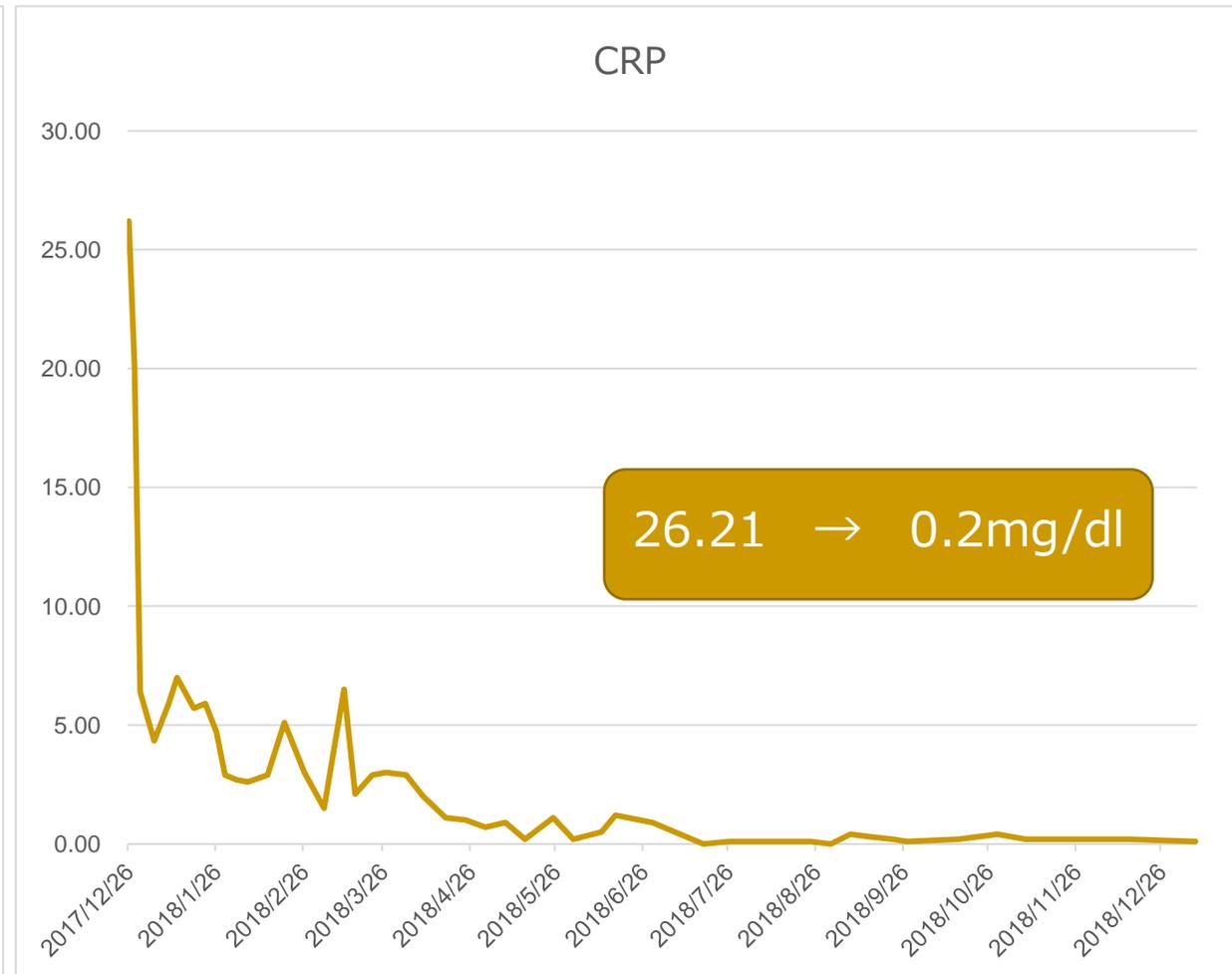
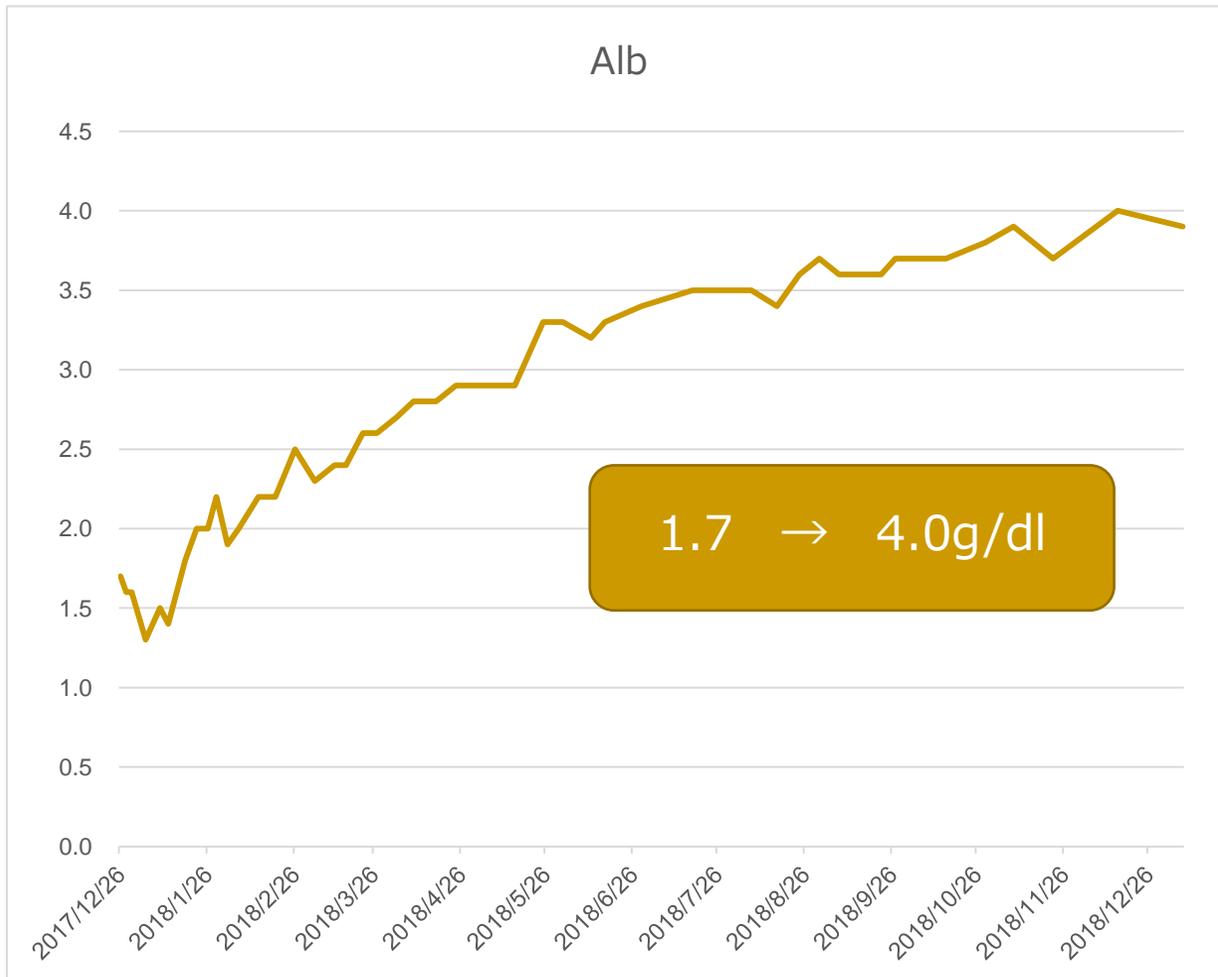
日付	2018/1/11	2018/1/13	2018/1/26	2018/2/9
期間	2週目	2週目	4週目	6週目
エネルギー量 (Kcal)	1200	1440	1440	1448
タンパク質量 (g)	60	70.2	70.2	71.2
水分量 (mL)	1308	1257	1407	1407
栄養管理	貧血進行あり再度輸血施行	亜鉛含有量の多い 経腸栄養剤併用 オルニュート®2包/日 血糖値高めで推移⇒内服開始	白湯増量	ペムノン®2包/日
褥瘡			胸水ほぼ消失 脱水傾向あり利尿剤減量 褥瘡部、喀痰から MRSA検出	2/2~2/3、2/23~2/24 貧血進行あり輸血施行

日付	2018/2/26	2018/3/6	2018/4/25	2018/5/11	2018/5/26
期間	9週目	10週目	17週目	19週目	21週目
エネルギー量(Kcal)			1448	1448	1424
タンパク質量(g)			71.2	71.2	67.6
水分量(mL)			1557	1407	1407
栄養管理			尿路感染症 ⇒白湯増量	両足背浮腫著明 ⇒白湯減量	ペムノン®1包/日
褥瘡	左大腿部の 皮膚潰瘍の縫縮	局所陰圧閉鎖療法		皮膚植皮術	

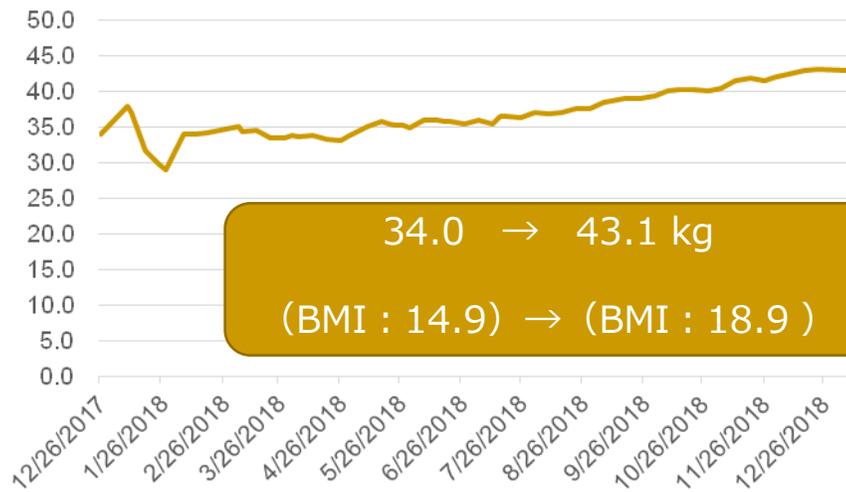
日付	2018/6/22	2018/7/2	2018/7/26	2018/10/31	2018/12/30	2019/1/5
期間	25週目	27週目	30週目	44週目	53週目	53週目
エネルギー量 (Kcal)		1424	1424		1200	
タンパク質量(g)		67.6	67.6		56	
水分量 (mL)		1421	1521		1512	
栄養管理	胃瘻造設	半固形化栄養剤へ 切り替え	尿路感染症 ⇒白湯増量 治癒後も再発防止 目的にて眠前の 白湯注入継続	ペムノン® 使用終了	体重増加持続 栄養量見直し	
褥瘡						褥瘡治癒



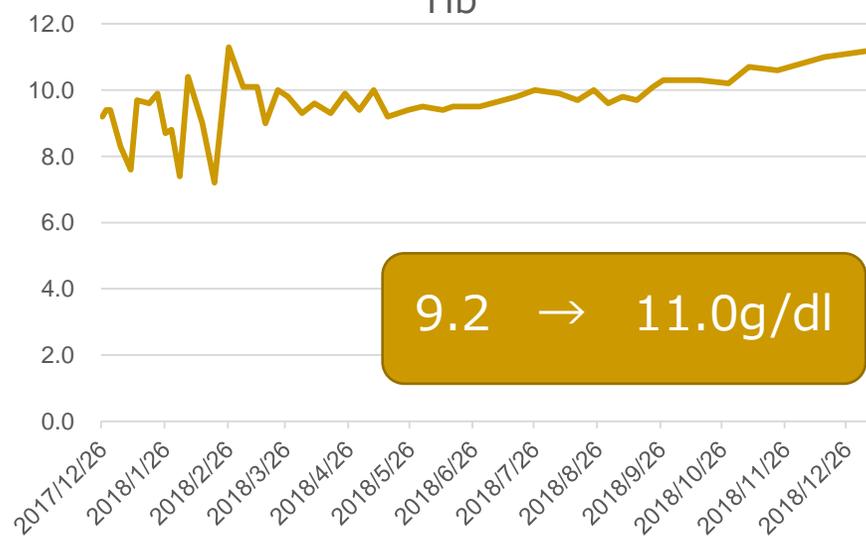
結果



体重変動



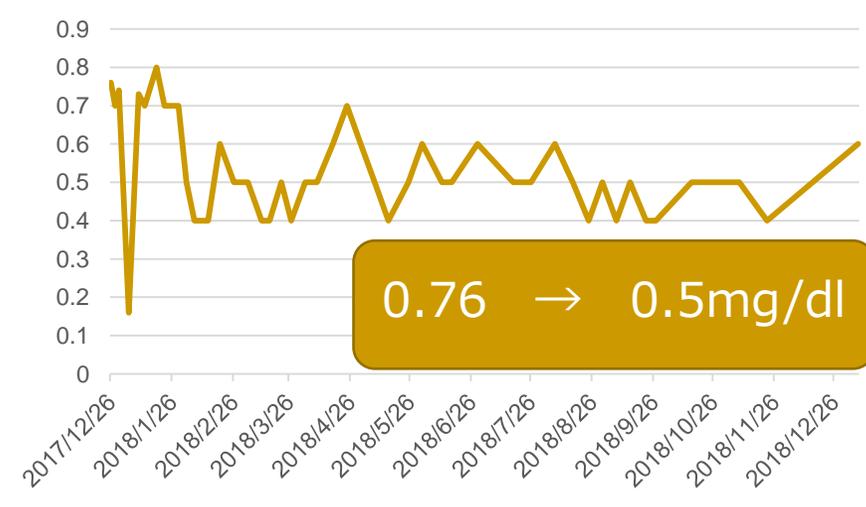
Hb



BUN

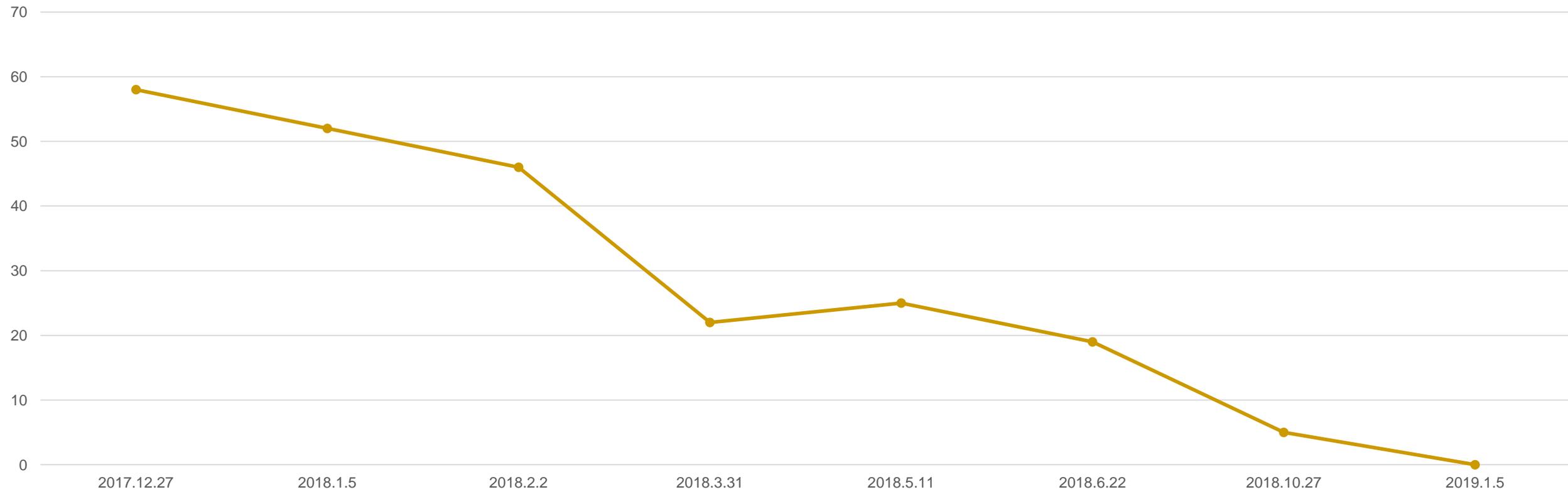


Crea





DESIGN-R®



入院時

NST介入時

オルニチン
使用終了時

局所陰圧閉鎖療法
終了時

皮膚植皮術時

胃瘻造設時

ペムノン
使用終了時

D4-58点

D4-52点

D4-46点

D4-22点

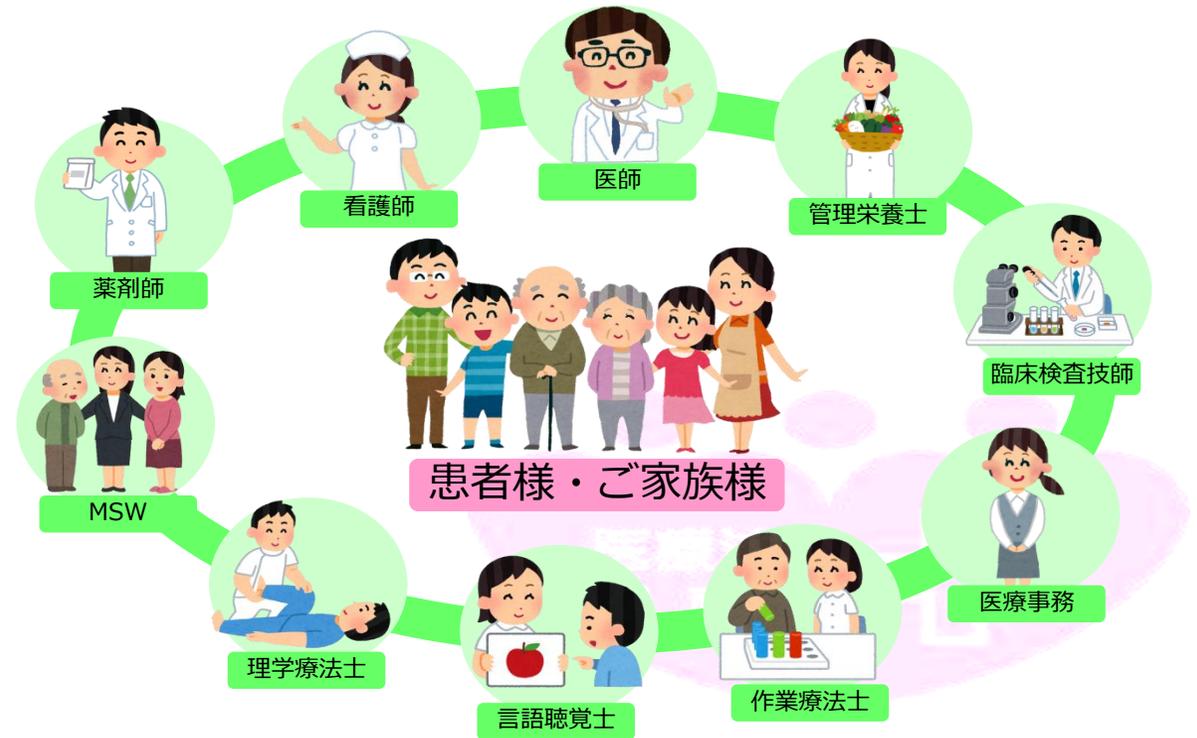
D3-25点

D3-19点

d2-5点

治癒

- 褥瘡対策チームとNSTが早期から介入し、密に連携をとることで、状態に応じた栄養剤や投与経路を選択することができ、低栄養改善、褥瘡治癒へ繋げることができた。





ご清聴
ありがとうございます
ございました

